

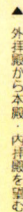
吾が夜半泣き
死に笑ふ



天皇の御事蹟は政治・経済・文化の多方面にわたりますが、特に天智元年(667)の春、近江大津京に定めて、わが国法律の基礎である近江令を制定され、国政の大本を築かれたこと、日本最初の官立学校を創設、教育制度を整え学問を奨励されたこと、通判(水時計)を設け、時刻制度を確立されたこと、後世に大きな影響を残された。また、小倉百人一首朗「秋の田のうきはの露の苦をあみわが衣子に露にぬれつ」の歌によって、広く国民に親しまれておられます。これらの御事蹟にあやかるべく、時の御祖・開運の大神、文化・産業の守護神としてあなれん崇敬をのべています。

〒520-0015 滋賀県大津市神宮町1番1号
TEL (077) 522-3725(代) / FAX (077) 522-3860
[HP] <http://www.oumijingu.org/>

OUMI-JINGU



てんじてんのう あのみことひらかすわけのねねみ

御由緒 天智天皇の御事績は、明治維新に至る1200年の基礎となり、古く奈良時代から、御歴代の天皇陛下のなかでも別格の位置におかれ、格別の崇敬があります。この1300年をわたる敬仰の歴史の上に、全国崇敬者の熱誠により、昭和15年11月7日、天智天皇の古都・近江大津宮ゆかりの大津市錦織・南志賀（現神宮町）の地に御鎮座になりました。戦後の発掘調査により近江大津宮の一角に間違いなことが確定的となった地です。当時の御社格は官幣大社。やがて勸祭社（全16社）に定められ、4月28日の例祭（近江大津京遷都記念日）には宮中より勅使が御差遣とされています。

さざなみの滋賀の都 古都大津京ゆかりの神域

1300年の歴史をしのぶ近江大津京の故地 — 近江神宮

祭事暦抄

1月1日	歳旦祭	
1月上旬の曜日	かるた祭	全国戦技かるた大会
1月10日	天智天皇祭	
2月3日	節分祭	
2月11日	紀元節祭	
2月23日	律令祭	近江令制定記念日
3月1日	勸学祭	
3月17日	祈年祭	
4月20日	例祭	勅使参向
4月下旬の曜日	近江まつり	
6月第1日曜日	流鎗馬神事	
6月9日	献茶祭	
6月10日	漏刻祭	時の記念日
6月第4日曜日	献粟・献蕨茶祭	
6月30日	饗宴祭	日供神饗饗々社大祭
6月30日	夏越大祓式	
7月7日	燃水祭	
8月24日	弘文天皇祭	
8月第4日曜日	献書祭	
11月7日	御鎮座記念祭	
12月1日	初穂講大祭	近江神宮新嘗祭
12月23日	天長節祭	
12月31日	年越大祓式	

舞楽

漏刻祭と燃水祭に奉納される



わが国文化・学芸・産業の発展の
源泉を確立された天智天皇とその
時代を仰ぎ、そのご神徳を称える
多くの祭典行事が行われています。
その多くは一般の方々にも参列・
拝観いただけます。

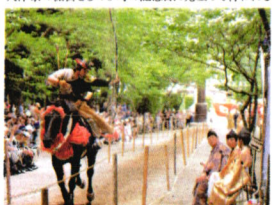
燃水祭

放火に習い・新湖黒川村(現船内市黒川)採油の原油を献納



流鎗馬神事

大津京の往古をしのぶ時の記念日に先立って行われる



漏刻祭

時の記念日ゆかりの祭典・時計新製品を献納



かるた祭

年頭に行われる百人一首かるたの関きの儀



饗宴祭

大津京の往時をしのぶ古式神饗が奉納される



文化・学芸・産業の祖神—天智天皇 時刻制度・学校制度の創始者



1階 時計館

2階 宝物館

時計館 宝物館
観覧料

個人	一般 300円	団体	一般 210円
	小・中学生 150円		小・中学生 100円
			※25名様以上



時計工房

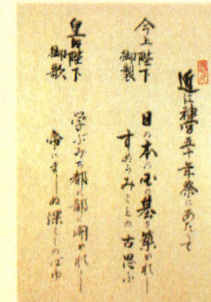
思い出の時計、記念の時計など、古い時計の
修理でお困りの方は御相談下さい。

お問い合わせ先/TEL 077-522-2200(時計学校内)

すめろぎの近江の宮につくりおきし ときのまにまに御代もたえせず

人がこの世に生を得、人生の節目節目に当って身を蔽い清め、神恩に
感謝し、神助を祈ることが、明るく豊かな人生につながり、社会を平
和と繁栄に導いてゆきます。

当神宮では、初宮詣・七五三詣・交通安全・厄除・安産・学業成就な
どの祈願、神前結婚式をはじめ各種祭典儀式など承っております。



御鎮座五十年祭御製(平成二年)



天智天皇御製

楼門の南回廊につく時計館 宝物館は昭和38年に時計歴史館として
館。平成22年に新装され、館内には奉納美術品等の宝物、わが国
自の檜時計や現存唯一の垂揺球儀をはじめ、日本現存最古級の懐中
計、内外の古時計など180点(収蔵は2,300点)を展示しています。
界的にも珍しい博物館として、その名は海外にまで知られています。
境内には、天智天皇ご製作の漏刻を再現したスイス、オメガ社寄贈の
山石造りの水時計、ロレックス社寄贈の古代中国の火時計、2基の精
日時計がつくられています。



▲ 古代火時計



漏刻(水時計)▶

天智天皇は、漏刻を設置し時刻制度を確立されました。6月10日の時の
念日は、このご事績に由来します。このほか、水碓を使って金属精錬
行い、土木建設事業に指南車(磁石)・水碓(水準器)を用いるなど
科学技術を積極的に採用され、技術開発、産業振興に努められました
このような積極的な産業政策の中で、燃ゆる水(石油)、燃ゆる土(天
アスファルト)、の採掘を見るに至りました。さらには国家発展の原動
たる人材育成のため、わが国最初の学校を設け教育制度を整備、各方
の学者を重用して学問を奨励されました。